

もとまち 元町二丁目六塚稻荷神社本殿 付文政二年棟札

当神社本殿は高い石積基壇上に建つ中規模の一間社流造で、屋根は銅板の瓦葺葺葺です。身舎の架構は出組を組んで中備に彫り物を飾り、妻飾は虹梁を一手持ち出して大瓶束と笄形で化粧棟木を支えています。架構はそれほど複雑ではなく、彫刻も所狭しと飾り立てるほどではありません。板支輪と笄形は、どちらも伸びやかな渦紋が彫られ、気品が感じられます。身舎背面の縁下板壁には狐の出入りする穴が開けられ、基壇の中に続いています。

身舎の壁面には、江戸彫の彫刻がはめこまれています。背面は亀を助ける浦島太郎、左側面は武士と唐子であり、脇障子は狐、扉の左右脇壁は鯉の滝登りです。右側面の物は残念ながら盗難にあい、失われています。

棟札によると、文政二年（一八一九）三月の再建です。当本殿のように江戸彫を用いた本殿は、天保期（一八三〇〜一八四四）以降に流行し、嘉永・安政期の一八五〇年代に最盛期を迎えます。当本殿は最盛期の三十年ほど前に造営されているため、最盛期の物に比べると、建築



元町二丁目六塚稻荷神社本殿

の架構があまり複雑でないこと、彫刻の用い方が控えめであること、などの特徴があります。

当本殿は、市内で初期の江戸彫が用いられている遺構です。景観上もランドマークとして重要で、その価値は高いといえます。

世界の国から、こんにちは！



中国 / 宝龍さん

内モンゴル自治区の通遼市の出身です。農業と畜産業が主な産業で、町の周りには平原が広がっています。最近では環境が変化し、砂漠が多くなってきました。

農業を学ぶために留学しました。現在、大学で農業政策の研究をしています。ふるさとの農業を守り育てるために、必要な知識を学んで帰りたいと思っています。

川越に住み始めて1年ほどたちました。昨年、偶然見た川越まつりが、とても印象に残っています。蔵造りはまだ見たことがないので、近いうちに見に行きたいですね。

*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは14ページ・17ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課・TEL224-5506

どんぐり

編集後記

まだ朝晩は冷えますが、日中は暖かい日が増えてきました。暖かい日ざし・風のおい・花の香り、いろいろな所で春の息吹を感じます▶においによって昔の記憶がよみがえることはありませんか？ 嵐のような風が収まった3月中旬、夜帰宅途中どこからともなく梅の香りがしてきました。こんな所に梅の花があったかなと辺りを探してみると、紅梅が1本咲いていました。そういえば2年前、遠方に引っ越してしまう友人の引っ越しを手伝った帰り道、寂しいのと疲れたのとでふらふらと歩いていると、梅の香りが。しばらくぼーっとにおいをかいでいた、そんな記憶がよみがえってきました▶春は出会いや別れの季節。もうすぐ始まる第19回小江戸川越春まつりに、新旧の友人を誘って、春を感じに出かけてみようと思います。(HA)